

# 京都文化研究班

研究プロジェクト代表

## 川嶋 将生

(立命館大学大学院文学研究科・教授)

## 洛中洛外図屏風の総合的アーカイブと都市風俗の変遷

京都文化研究班  
洛中洛外図屏風の総合的アーカイブと都市  
風俗の変遷

【事業推進担当者】 川嶋将生  
【特別研究員】 源城政好  
【客員研究員】 松本郁代(横浜市立大学)・出光佐千子  
(出光美術館)  
【客員研究員(海外)】 張建立(中国社会科学院)  
【学外研究協力者】 下坂守(帝塚山大学)・彬子女王(オック  
スフォード大学)・前崎信也(ロンドン大)

### 研究目的

「洛中洛外図屏風」は、京都の景観と都市住  
民の生活・習慣・風俗・姿態などを描いた風  
俗絵画で、16世紀以降になって描かれる。  
本研究プロジェクトでは、「洛中洛外図屏風」  
を中心的素材としながらも、そのみではなく、  
その他の絵画や記録も参考にし、絵画に表  
現された豊かな情報を読み解くことで理解で  
きる京都の都市イメージを多角的に探求し、  
さらにバーチャル展示へと展開することを追  
究する。

### 研究トピックス(2007～)

#### 1、シンポジウムの開催

研究会とは別に、その時点までの  
研究成果を総括するためにも、適宜、  
シンポジウムを開催している。昨年度  
は

「京都vs江戸―描かれた京都と江戸  
を読み解く―」(2008年3月1日～2  
日)

を開催し、主に出光美術館所蔵「洛  
中洛外図屏風」「江戸名所図屏風」を  
素材として、5名の個別報告と、2回  
の全体討論をおこなった。



#### 2、研究会の開催

年4日間程度、開催。参加者  
は歴史・美術・文学・地理学な  
ど多分野に及ぶ。また参加者  
は本学関係者だけではなく、  
他大学の院生なども参加。ま  
た日本の大学だけではなく、ア  
メリカ・カナダ・イギリスなど  
の大学関係者も参加する。PD・  
院生など若手研究者が主体と  
なって活発な議論が展開され  
ている。なおこれまでの研究会  
の成果は、2009年5月に『風  
俗絵画の文化学：都市をうつ  
すメディア』として出版される予  
定。



研究会の風景

#### 3、展覧会の開催

「極め札展」を開催。

期間：2008年12月1日～12月1  
2日

本プロジェクトにおけるコンテツ研  
究の一環として、古筆などに付随  
した極め札に注目し、約30点の極  
め札と古筆の展示をおこなった。  
本プロジェクトでは、こうしたコンテ  
ツ研究の成果としての展示会も  
随時開催する予定。



展覧会ポスター

古筆家の極め札



展示会場の風景



歳末の京都(「月次風俗図巻」アート・リサーチセンター蔵)